

令和6年度 北区地域包括ケアシステム推進会議

日時 令和6年（2024年）8月23日（金）14時～16時

場所 植木文化センター 多目的ホール

出席者（敬称略）

平田 貴文、木村 浩美、井手 博美、野尻 晋一、藤本 雅士、立花 久幸、
濱松 いくみ、竹熊 千晶、松川 美枝、阪本 希望子、原 満喜子、渡邊 靖子、
境 俊次、秋吉 展明、中村 雪江

※欠席委員（敬称略）

宮本 大典、宮田 みづほ、中野 賢誠、本村 幸大、津地 尚文

1 情報提供「第9期くまもとプランの策定について」

2 議事

（1）事務局説明

- ① 令和5年度 第2回地域包括ケアシステム推進会議報告
- ② 第3期（令和7年度～令和9年度）北区地域包括ケアシステム推進方針策定について

（2）意見交換

- ① 市地域包括ケアシステム推進会議（第1層）への提案する課題について
 - ・移動に係る課題
 - ・医療介護連携不足にかかる課題
- ② 第3期北区地域包括ケアシステム推進方針（案）へのご意見

○熊本県看護協会 木村委員

ご高齢になると足腰・目・心臓など複数の疾患をお持ちで、複数の医療機関に受診しているため、主治医が誰なのか悩むことがある。ご利用者さんご家族も、病状や薬の内容の把握が難しいこともある。ケアマネジャーも主治医の意見書をどの医師に依頼するか判断に悩まれることもあるので、ご相談を受けたり、意見交換をしたりする。

ご利用者さんの状態も変わるため、メインになる病気が変わると、相談する医師も変わってくる。そのチームをどう取りまとめるか悩む。医師同士も連携をとっていただけたらと思う。医療職の専門として、ケアマネと協力して、専門的な部分をサポートはするようにしている。

○熊本県栄養士会 井手委員

栄養士会でも、医療と介護の連携が不足していると感じているところ。

例えば病院に入院して在宅に退院するとき、病院から特養・老健などの施設に入るときに、栄養面の引継ぎ・連携ができていないと感じるところがある。そういうところを栄養士同士で連携を図ろうと栄養士会でも取組を始めたところ。

○熊本県理学療法士会 野尻委員

今までは脳卒中や神経難病があって、その障がいに対してどう関わって社会復帰をしていくかは非常に大きい課題の1つだったが、年齢がスライドして、対象者の方はたくさん
の複合疾患を持っておられる。

一般市民・医療機関・施設・ケアマネへの心疾患予防の普及啓発のため、9月に研修会を開催される。

運動指導をし、結果を報告するが、フィードバックがない。データ分析も必要だが、現場へのフィードバックの仕組みをつくってほしい。

地域リハビリテーション広域支援センターの会議にも出席しているが、地域包括ケアシステム推進会議と重複する課題がある。地域リハビリテーション広域支援センターの代表が地域包括ケアシステム推進会議に参加いただけると、横のつながりができてよいと思う。

○熊本県介護支援専門員協会 熊本市支部 藤本委員

医療介護連携不足の課題では、ご利用者さんの疾患が多く、ご家族が正しい情報を持っていないこともあり、情報を取りにくいことがある。また情報を取るのに時間や手間がかかる。

介護支援専門員協会としては、医療機関と情報共有しやすいように連携シートを作成している。また、情報をとれない点については個人の課題の場合もあるため、協会として各ケアマネジャーの能力の向上を研修等で対応していきたいと思う。

医療の現場の方と介護の現場の方のお互いの知識や認識の差はあると思う。病院からの情報提供があるときに、なぜ情報提供しているか、共有できてないことがある。そういったずれをなくすためにも、お互いの立場の共有の場があるといいと思う。

○麻生田校区自治協議会長 秋吉委員

高齢者の方は食べることが楽しみと思うが、買い物難民が多く、弁当だけでは飽きてしまう。移動スーパーが近隣にも来るが、とまる場所や時間に縛りがあり、利用できない人も
いる。

高齢者の方が今日は何を食べておいしかった、今日満足したというような、生活環境を作

っていただければ、高齢者の方も助かると思う。

今日は１日が充実した１日だった、今日は誰と何をして楽しかったなどの期間を幸福寿命とし、幸福寿命が長くなるような事業を進めているところ。

○山本校区自治協議会長 境委員

チョイソコくまもと植木というＡＩデマンドタクシーが今年７月から運行が始まっている。デマンドタクシーの予約電話を受けている事業所が他県にあり、地名が正しく通じない、当日の予約はとりにくい、などの課題があるが、乗車料金が安い、停留所が近い、ため病院や役所に行きやすい、など非常に便利なシステム。今からデータを積み重ねて、よりよい運用システムができればよい。

以前は親と同居も多かったが、現在は家族構成が変わってきて、親と離れて暮らす人も多い。

親子離れている人は介護が大変。なにかいい方法があるか、みなさんで考えたい。

サロンはコロナ禍で活動が鈍っていたが、最近は活動再開している。今あるものを充実していきたいと思う。

いろいろな健康の形があると思うが、いろいろな人に交わるのが健康への近道。しゃべって笑顔がでるときは不健康にならない。自治会でも交流の場が活発になるよう活動をしたい。

○武蔵校区民生委員児童委員協議会長 中村委員

武蔵校区は北区役所まで来るのに交通手段がないが、普段の買い物や公共機関での移動には環境的に恵まれている。

サロン活動は継続している。事業所等の支援があり、参加者も楽しまれており、以前より参加者が増えている。

民生委員と消防・警察との福祉ネットワーク会議を開催し、災害時の対応などについて協議をしている。今年も開催予定。

骨粗しょう症の予防の検査・講座を実施。応募者多数。とてもためになった。

支援している人が入院。近隣の方も支援されていたが、入院していることを近隣の方が知らずに、心配されていたことがあった。ケースバイケースだが、本人の了解を得て、いのち財産を守るために近隣の方と情報共有する事案が増えてくるのではと思う。

○熊本市障がい者相談支援センター アシスト 阪本委員

退院間際になって連絡があるところがあるが、障がいのサービスの利用には時間がかかる。支援する方の住民票がある相談支援センターで対応することになっているため、県外まで連絡取ったりすることもある。

複合したいろんな課題を抱えている方については、例えば摂食障害がある方が内科に入

院が必要でも、精神科内科両方の対応できる病院を探す必要があるなど、対応に難しさを感じることもある。

個人情報の壁は、特に障害の分野はとても厚いと思う。本人が介入を希望されなければ介入できないことがある。本人が関係者に伝えることで、関係者が一緒に関わることができ、支援につながると思う。

○熊本市障がい者相談支援センター チャレンジ 松川委員

チャレンジは旧植木町、旧北部町の障がいのある方の相談、地域の方々への障害理解啓発活動を行っている。

移動に係る課題では、AI デマンドタクシーについて、対象の事業所や本人などに広報しているが、とてもは助かる、との声を聞いている。

連携不足に係る課題のところは、障害福祉でも横の連携をどうするか、同じように課題。精神科にご入院して退院される場合、障害の分野では相談支援専門員がつくが、病院と相談員の連携を図っていくところでは、同じように課題がある。合同で研修を行うなど、顔の見える関係をつくり、お互いの立場の違いによって生じるところ擦れ違いを少しずつ詰めていくことが大事と感じた。

○熊本市 8020 健康づくりの会北区支部長 渡邊委員

8020 健康づくりの会として、啓発活動などボランティア活動をしている。

個人としては民生委員もしており、退院後に施設を利用したいが、施設や内容がわからないなどの相談にのることがある。

○熊本市食生活改善推進員協議会北支部 原委員

毎年テーマを決めて、校区単位で調理実習を実施。昨年のテーマは貧血予防、今年は便秘予防。高齢者向けにはフレイル予防、低栄養予防の食事づくりの仕方などを実施予定。また脳トレやゲームを皆さんと一緒にしている。

食事は生活の習慣なので、小さい頃から身につけるため、熊本市ではいきなり団子プロジェクトを実施。昨年、小学校8校で親子対象に、いきなり団子など郷土料理作りを実施。今年も実施予定。

個人としては、ご本人、介護されている方の憩いの場を開催している。夫が妻を介護していて、料理に困るなどの困りごとの相談を受ける。今年は場所を変えて開催している。

○社会福祉法人 熊本市社会福祉協議会 北区事務所長 立花委員

熊本市社会福祉協議会では、日常生活自立支援事業などを通して、高齢者の支援をしているが、医療介護の連携をして、その方の生活を支えていく、ということが要になると思う。校区の社会福祉協議会とささえりあと連携して、ふれあいいきいきサロンの継続に力を

入れていきたい。

○認知症の人と家族の会 熊本県支部 濱松委員

認知症コールセンターで事業を行っている。認知症コールセンターでは相談・来所・訪問・病院受診同行・職場訪問などに対応し、年間1,000件以上の相談がある。各種つどいの場の開催、認知症や介護・予防についての講演活動も行っている。認知症サポーター養成講座の講師をするキャラバンメイトは3、4名在籍。自身も今年キャラバンメイトの養成講座を受講。小学校への認知症サポーター養成講座への支援予定。

認知症の方の行方不明についても課題になると思う。

○平田副会長 まとめ

チョイソコくまもと植木が現実化したのはこの会議のひとつの実績。スマートフォンが使える人のほうが予約をとりやすく、使わない人はうまく利用できないとのご意見も聞くため、振り返りを共有し改善につなげられたら、この会議がモデル事業になるのではないかなと思う。

日本医師会は、かかりつけ医をつくりましょうと提案している。かかりつけ医は、例えば抗がん剤治療などのプロではないかもしれないが、人生のアドバイスや受診先の提案などができる。介護保険をご利用するような年齢になられたら、かかりつけ医を持つことが、連携をとるうえでひとつの目安になると思う。

植木には救急医療をみてくれるところは植木病院しかないが、今年の4月から植木病院の整形外科がなくなった。住民の方にそのことを話す機会はなかったと聞いている。住みなれた地域に住み続けるには受診ができないのは困る。今後病院がどうなるかの話を地域住民も含めて是非持っていただけるとよい。

→吉住北区長

植木病院の件については、大学病院等へも相談しているが、整形外科の医師がいないと聞いている。

植木救急に関しては、植木病院と熊本機能病院と朝日野病院の3病院で連携して、救急車の搬送の対応をしていると聞いている。

○竹熊会長 まとめ

私たちだけではできないことがあるが、行政が介入しても資源はかぎられる。私たちができることはどういうことなのかを考えていき、つながりを持ちながら、対応していきたい。